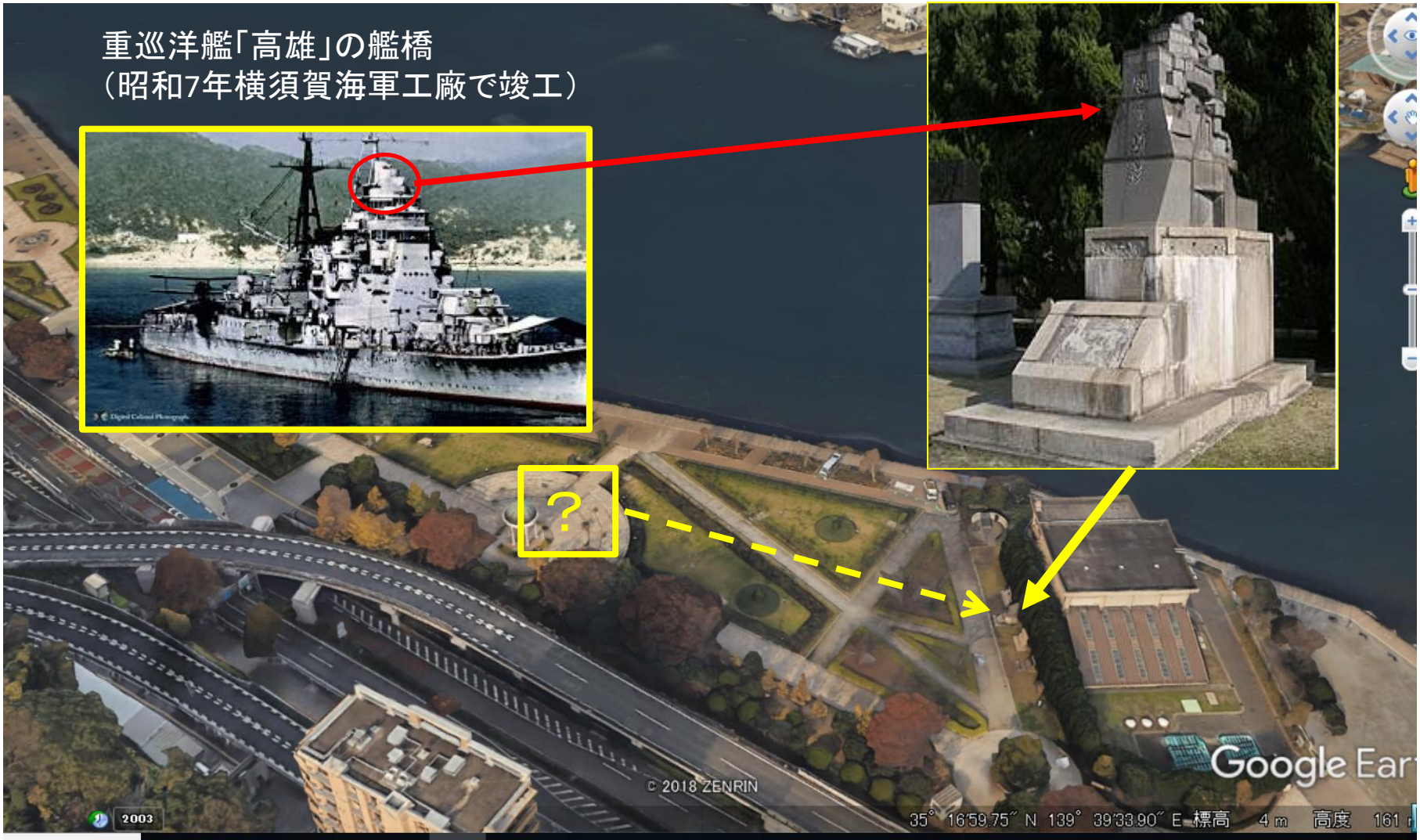
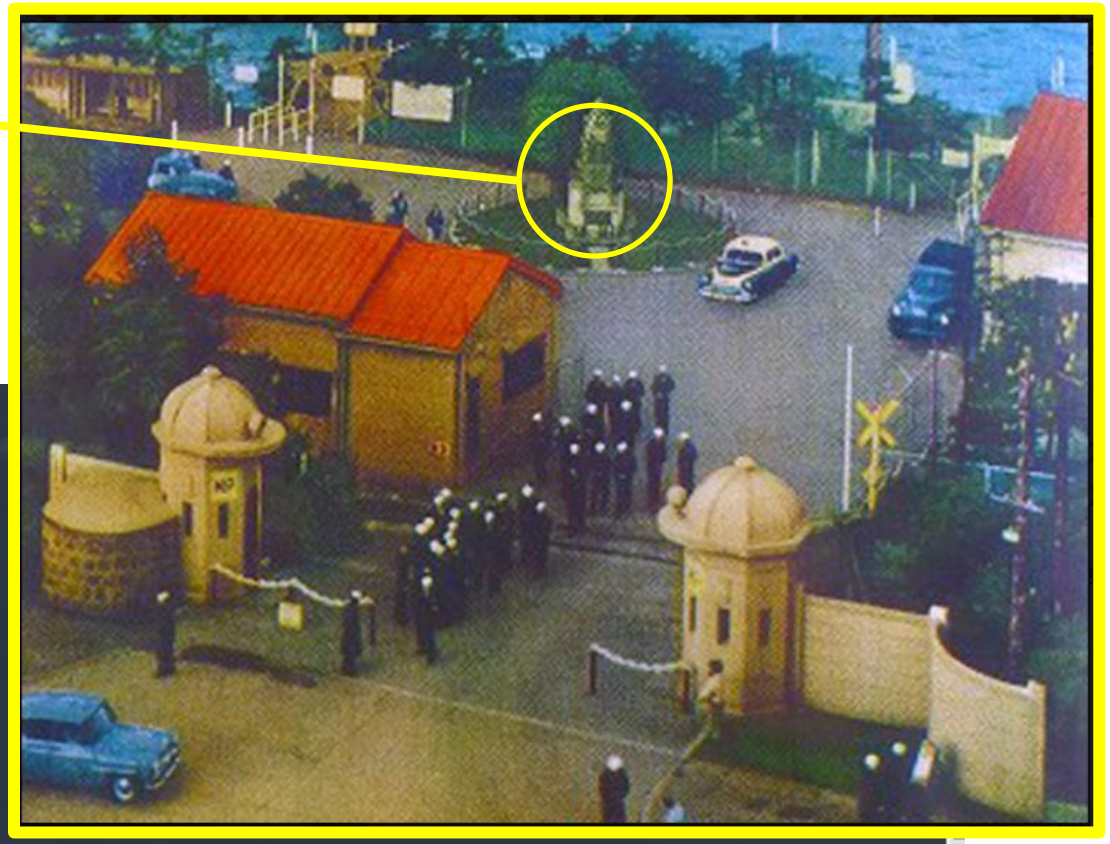
国威顕彰の碑と
剥がされた銘板の謎
（横須賀ヴェルニー公園）





?
© 2018 ZENRIN
Google Earth

2011年12月10日　朝日新聞

謎の横須賀石碑
由来は反軍縮
1936年の条約脱退 国内の歓迎示す

半世紀以上も由来不明になっている石碑が、神奈川県横須賀市の公園に立っている。由来はずっと謎のままだったが、今秋、軍縮条約脱退を機に旧海軍が建てたとする由来記などが相次いで見つかった。

旧軍の機密や米軍の占領統治の影響で謎が多いとされる横須賀の歴史の一端が解明され、専門家は「貴重な発見」と歓迎する。

JR横須賀駅近くで海上自衛隊や米海軍の基地が見渡せるヴェルニー公園。石碑は旧海軍の巡洋艦に似た形で、前面に「国威顕彰」と刻まれている。公園は戦前、旧海軍の敷地だったという。市によると、この土地は敗戦で米軍に接収され、その後、返還されたが、石碑の由来を示す銘板

現在に残る石碑＝神奈川県横須賀市汐入町1丁目

などはいつの間にか持ち去られていたという。

今年10月、朝日新聞が地域面で「石碑の不思議」を取り上げたところ、横須賀市の歴史家安達将孝さん(80)からの情報提供がもとになり、石碑の由来や当時の写真を収録した旧横須賀海軍人事部の部報（37年6月発行）を、防衛省の防衛研究所(東京都目黒区)が所蔵していることがわかった。

由来記によると、軍艦の数を制限するロンドン海軍軍縮条約から36年に日本が脱退して1年余が経ち、士気の高まる海軍をたたえて作られたという。日本は33年に国際連盟を脱退。第1次世界大戦後の軍縮時代は終わりを告げ、条約からの脱退が当時、国内で歓迎されていたことがわかる。

さらに市立横須賀美術館の沓沢耕介学芸員(38)は記事を読み、「国威顕彰」の文字にピンときた。自身の収集品から、石碑にはめ込まれていたとみられるレリーフの写真の絵はがきなどを見つけた。

レリーフの作者とされる日名子実三は、軍の記念碑を多く手がけた彫刻家。日本サッカー協会のシンボル「八咫烏」をデザインしたことで知られる。（矢吹孝文）

日名子 実三（ひなご じつぞう[1]、1892年10月24日 - 1945年4月25日）

月岡芳年「大日本名将鑑」より「神武天皇」。

八紘一宇の碑
宮崎県
（日名子 実三作）

昭和33年5月2日　水交荘（現記念館の前身）にて返還

各地のたより

元水交社所蔵美術品の一部戻る

現在元水交社の建物（港区芝栄町）を使用しておる東京ロータリー倶協会から、元東京水交社所蔵の油絵七点、水彩画二点、日本画一点、銅版彫刻五点、書額三点、木

海上

◎33年度佐世保地方隊
佐世保地方隊の本年月十三日から五日間、検閲官となり、佐世保並びに下各部隊の士紀及び服務の状況、教況各種行動等に対する艦船、航空機、武器物保存、整備及び管理運について査閲が行われ

◎あやなみ　東京で初の「うらなみ」は竣工後、横須賀地方隊に所属して訓練中であつたが、五月八日、東京港芝浦さんに回航、午後一時から内外の知名士多数を招待、一般に公開された。旧海軍関係者で乗艦された主な人々は、沢本頼雄元大将、野村直邦元大将、榎本重治氏等であつた。翌九日には一般部民に公開

昭和三十年度建造（

とを卒業すれば愈々実施部隊に配属され、実用機の訓練を受けるわけである。

そして一層技能を磨き約二年後には三等海尉（少尉）に任命されるのである。すなはち新制中学卒業で操縦学生に合格すれば六年後には三等海尉に任命され航空士官として海上自衛隊の航空機に搭乗することが出来る。

彫像一点、三笠砲身破片一点、ガトリング砲一点、を水交会に寄贈方申出があり、（これは日米協会小松氏、日本タイムス東ケ崎氏の斡旋によるところが多い）五月二日一六〇〇から港区芝栄町の旧水交社において贈呈式が行われた。

贈呈側からは米日中のマソニック協会最高幹部スミス氏をはじめ東京マソニック協会日米幹部十数名、水交会側からは中野直枝、山梨勝之進、野村吉三郎、長谷川清島田繁太郎、沢本頼雄、武井大助、吉成宗雄、福留繁、長沢浩、臼井淑郎の諸氏が参列し、スミス氏の挨拶、沢本水交会長の謝辞があり和気のうちに贈呈を終えた。

追記　右の品々はとりあえず水交荘に運ばれて保管されているが、その中には松方コレクションの名画、十二尺、八尺の神武天皇の大幅（日本画）十二・五尺、八尺の満洲国江上艦隊図（油絵）等も含まれている。

（写真左より長沢海上幕僚長、野村参議院議員、スミス氏、沢本水交会長、モルグリス秘書）

品名左の如し

油絵　日本海々戦三、黄海海戦一、満洲国江上艦隊一、海戦（ミー作）一、一式陸攻機空戦一、

水彩画　月下の黄浦江、夜間商船臨検、

日本画　神武天皇、

書　伊東元帥、勝海舟、大石良雄の書、

銅版彫刻　観艦式五、

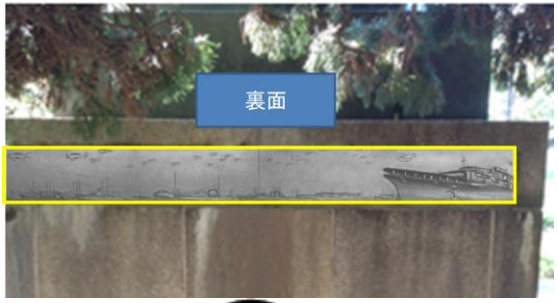
木彫像　女神裸像

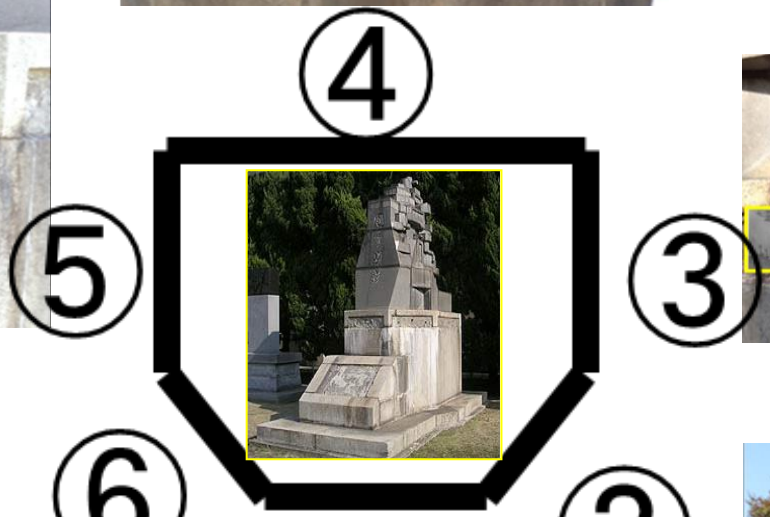
置物　三笠砲身破片

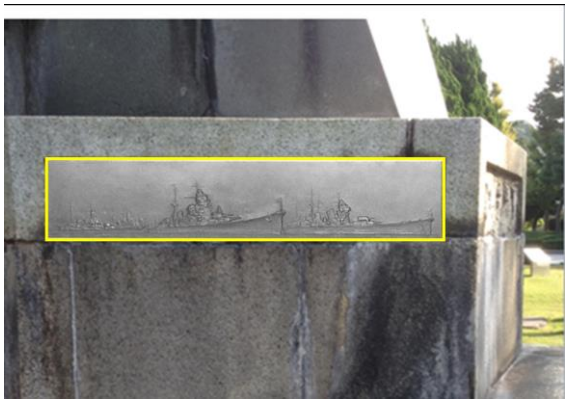
記念砲　ガトリング砲（アームストロング社製）

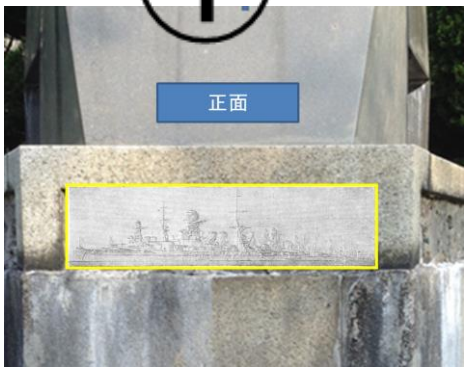
殉国烈士の碑

山口県護国神社の聖地に、今次の戦争裁判によつて刑死された県下三十三烈士の尉霊碑が建設され、昨秋十一月十日いとも厳粛に除幕式が施行された。称して殉国烈士之碑と云う。恐らく日本国内に於て斯くの如く大胆に堂々と銘を打つて処刑者の碑を建立したのは当地が嚆矢とする所であろう。建立者は山口県世話人会、同郷友会、同憲友会、法務関係者一同である。是等の密接な協同提携の下に出来たのであるが、実際は郷友会々長高橋忠治氏（兵三五期）のた


裏面

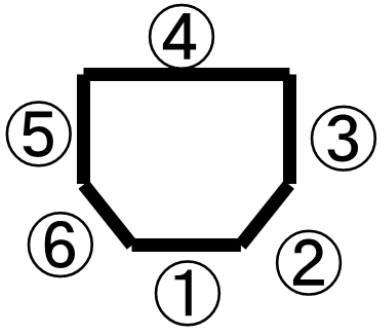

④
⑤
③
⑥
②
①




正面

正面の銘板は所在不明

①(戦艦
長門、陸奥の順)



水交会に保存の銅板彫刻(5枚)

①　②

⑤(軽巡群)

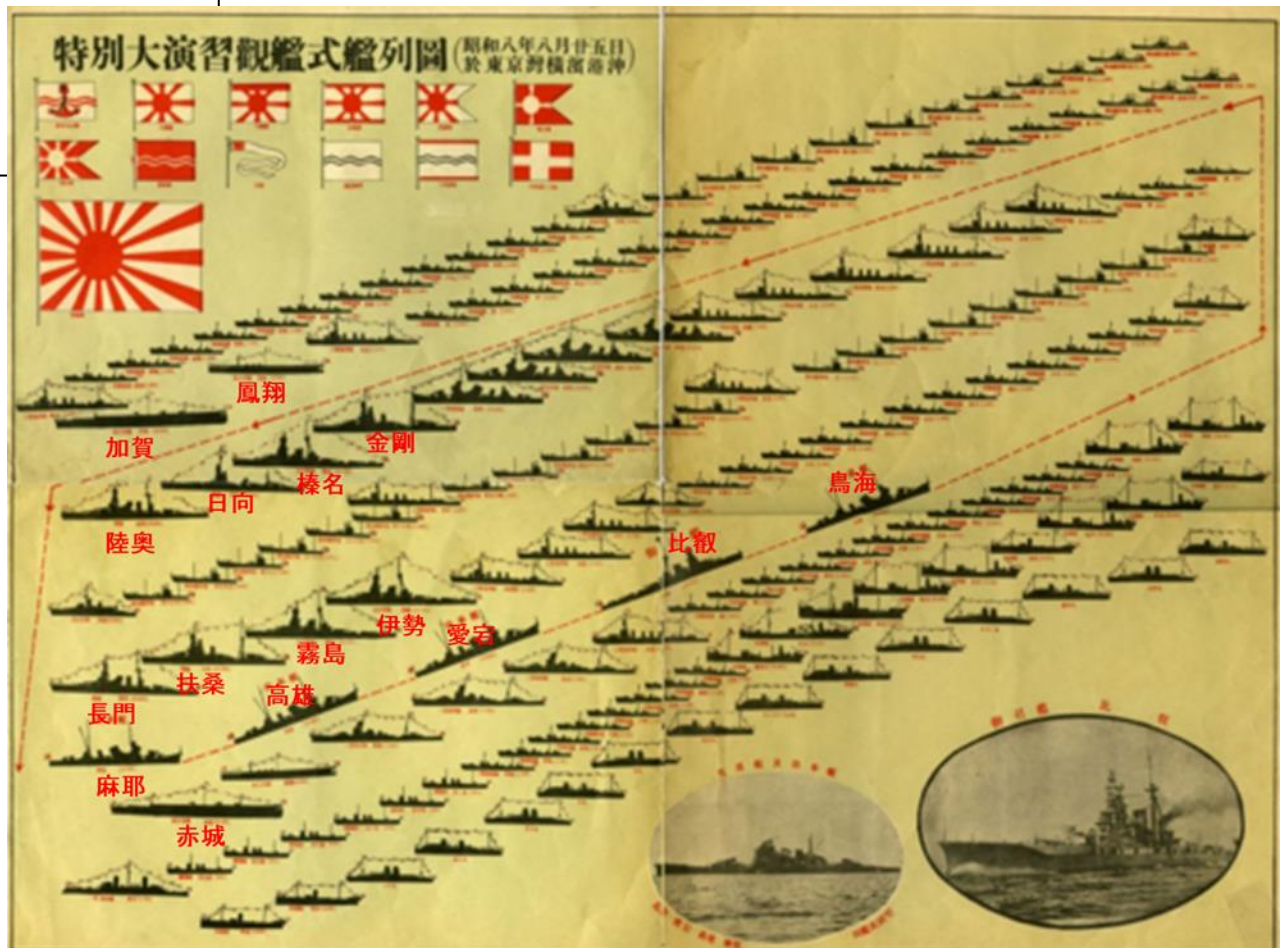
③　④

④(空母
潜水艦)

⑤　⑥

③(駆逐艦群)

⑦　⑧

②(重巡)　⑥(重巡)

- 大演習観艦式
- 1933年（昭和8年）8月25日、横浜沖。
- 参加：計161隻（84万7,766トン）、飛行機200機
- 御召艦『比叡』
- 先導艦『鳥海』
- 供奉艦『愛宕』『高雄』『摩耶』
- 第一列『春日』掃海艇6隻、駆逐艦8隻、特務艦艇9隻
- 第二列『加賀』『鳳翔』『青葉』『衣笠』『加古』『神通』駆逐艦12隻、特務艦2隻
- 第三列『陸奥』『日向』『榛名』『金剛』『阿武隈』『名取』『由良』『夕張』駆逐艦12隻、『白鷹』
- 第四列『迅鯨』『球磨』『多摩』潜水艦21隻、『厳島』
- 第五列『長門』『扶桑』『霧島』『伊勢』『足柄』『那智』『羽黒』『妙高』『古鷹』『大井』『那珂』『川内』『木曾』『北上』駆逐艦3隻
- 第六列『赤城』『龍驤』『鬼怒』駆逐艦16隻、潜水艦3隻
- 第七列『龍田』駆逐艦12隻、『長鯨』 潜水艦11隻
- 列外
- 『野島』以下15隻